



『であい、ふれあい、そして未来へ』～自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成～

『= 節目をむかえます(令和元年から令和2年へ) =』

一年間で最も長い2学期が本日終了しました。保護者・地域の皆様には本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございました。おかげさまで、各行事、日頃の学校生活においても、多くの白川っ子が学習に運動に委員会活動など、様々な取り組みに一生懸命取り組み輝く学期となりました。1学期に引き続き、白川小学校の子どもたちの活躍にはめざましいものがありました。

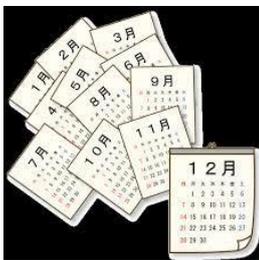
さて、明日から冬休みになります。冬休みには、お正月、大晦日と言った日本的な風習に触れたり、クリスマスもあつたり、楽しいイベントがたくさんあります。

大晦日から1月1日午前0時を過ぎると元旦になり、これを『節目』として令和元年(2019年)から令和2年(2020年)に年が変わります。では、この『節目』とは、どういう意味があるか考えていきたいと思ひます。『節目』の読み方は二通りあり、一つはよく使われる『ふしめ』です。二つ目は『せつもく』という読み方です。今回は『ふしめ』について考えたいと思ひます。『節目』は『木材・竹などの節のあるところ』『物事の区切り目』という意味です。竹は中が空洞なのでそのまま伸びていくとあまり大きくなることができません。竹の幹は、材料を最小限にして早く成長するために、中がパイプの

ような空洞になっています。幹の太さと肉厚に応じて、横からの力で倒れたり押しつぶされたりしないように保持するのが節の役目です。背の高い竹に節があることで、強風による横からの力が当たってもその力に耐えるように、竹は折れにくく丈夫になり、しなやかなのです。このように、節があることによってしっかりとした作りになり、さらに高く成長していくことができるのです。

白川っ子たちにも、若竹のように自分自身を丈夫にし、しなやかに、さらに成長させるために、この節目を大切にしてほしいと願っています。二学期までの自分自身を見つめ直して、良かったことはさらに伸ばせるよう、悔いの残ったところは直すよう挑戦するために、この『節目』で「来年の目標(めあて)」を掲げてみましょう。

今、ここから始まる未来と自分をよりよく変えるためのスタートとなる冬休みにしましょう。



＄ 1、2、3月の主な行事予定 ＄ ※変更となる場合もあります。



- | | | |
|----|--------|-----------------------------|
| 1月 | 1日(水) | 元日、白川神社新年大祭 |
| | 6日(月) | 学校閉校日(12/27~1/6) |
| | 8日(水) | 第3学期始業式、(11:45一斉下校) |
| | 9日(木) | 給食開始、4限授業、(13:30一斉下校) |
| | 15日(水) | 教職員研修会のため短縮4限授業、(13:00一斉下校) |
| | 16日(木) | 4年生社会見学(予定) |
| | 18日(土) | もちつき集会(土曜授業) |
| | 22日(水) | 4、5年生みえスタディーチェック |
| | 23日(木) | 6年生租税教室 |
| | 29日(水) | 特別支援学級作品展(～2/2) |
| | 31日(金) | 体力向上支援授業 |



- | | | |
|----|--------|-------------|
| 2月 | 2日(日) | 明星祭:体育館 |
| | 3日(月) | 四小交流会:神辺小学校 |
| | 11日(火) | 閉校(建国記念の日) |





2月20日(木) 第5回学校運営協議会
 22日(土) 放課後子ども教室運営委員会(8:30)
 PTA役員会(9:00)
 PTA合同委員会(10:30)



24日(月) 閉校(振替休日)
 3月3日(火) 6年生を送る会
 18日(水) 給食最終日、(13:30一斉下校)

19日(木) 卒業証書授与式
 20日(金) 閉校(春分の日)



23日(月) 3限授業、(11:45一斉下校)
 24日(火) 3限授業、(11:45一斉下校)

25日(水) 令和元年度修了式、離任式、(10:30一斉下校)



修了式

＝白川小コラム＝

あと9日で2020年がスタートします。2020年の十二支は子(ねずみ)です。「子、丑、寅……」でわかるように十二支は子(ねずみ)から始まりますが、どうしてネズミが最初なのでしょう?もともと十二支は動物とは無関係のもので、東西南北の方角に「子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥」と漢字をあてていましたが、十二支を覚えやすくするために、その字に動物をあてはめていったのです。その成立には様々なお話がありますが、ひとつの民話を紹介します。

昔々、ある暮れのこと。神様が動物たちに御触れを出しました。

「元日の朝、私のところへ出掛けてきなさい。最初に到着したものから12番目のものまでを、1年交代でその年の大将にしてあげよう」

動物たちは、我こそが1番になるぞとはりきっておりました。ところが、ネコは話を聞き漏らしてしまい、ネズミにたずねます。するとネズミはわざと1日遅れの日付を教えてやり、ネコはそれを真に受けて帰っていきました。

元日となり、足の遅いウシが誰よりも早く夜明け前に出発しました。すると、牛小屋の天井でこれを見ていたネズミが、こっそりウシの背中に飛び乗りました。そんなこととは知らないウシが神様の家に行ってみると、まだ誰も来ておらず門も閉まったまま。我こそが1番だとウシは喜び、門が開くのを待っていました。

やがて朝がきて門が開いたとたん、ウシの背中からネズミが飛び降り、ネズミが1番となりました。残念ながらウシは2番となり、それからトラ、ウサギ、タツ、ヘビ、ウマ、ヒツジ、サル、トリ、イヌ、イノシシの順で到着しました。1日遅れで出掛けたネコは番外となり、それ以来ネズミを恨んで追いまわすようになったそうです。こうして最初がネズミとなり、動物を当てはめた十二支が広く浸透していったというお話です。

最近では十二支と干支を同じような意味で使うようになりましたが、厳密に言うところの2つは別物で、干支とは「干」と「支」が組み合わされた言葉であり、正しくは「十干十二支(じっかんじゅうにし)」と言われています。

十干十二支とは、古代中国の思想である陰陽五行説から発生した概念です。私たちが普段干支と呼んでいる「子～亥」は、十二支にあたります。それに対して十干は、その名のとおり「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」の10種類の要素から成り立つものです。

十干最初の「甲」と十二支の最初の「子」を組み合わせた「甲子(きのえね)」から最後の「癸亥(みずのとい)」まで、その数は実に60種類にのぼります。

高校野球でおなじみの「甲子園」は、球場が完成した1924年が奇しくも十干十二支のそれぞれ最初の「甲」と「子」が60年ぶりに巡り合う年だったため、その縁起の良さにあやかって名付けられたと言われています。

ちなみに、2020年を十干十二支であらわすと「庚子(かのえね)」になります。

昔から伝えられている因習・風習・慣習などについて、なぜだろう?と興味を持ったり、考えてみたりすることも一つの学びになります。